

# 一般質問通告表

令和7年12月定例会議

質問順	件名	要旨	答弁者	議員名
1	1. 吉岡西部地区の将来像は	<p>令和4年9月に事業着手した、吉岡西部土地区画整理事業では、地区内の道路整備や宅地などの造成も進み、移転対象者の方々も移転が完了しつつあり、徐々に新しいまちの形が見えて来たと感じている。</p> <p>事業地内では、黒川消防本部や都市計画道路北四番丁大衡線吉岡工区の工事についても来年4月からの業務開始・供用に向け整備が進められている。</p> <p>しかし、一方では他の路線への流入により、交通量の増加などについての懸念も聞かれる。</p> <p>本町の将来を見据えた重要な事業であり、今後の対応が求められると考えるが、以下について町長の考えを伺う。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 事業の進捗状況と新たな問題はあるか。</li> <li>2) 県道升沢吉岡線などへの車の流入による交通対策の考えは。</li> <li>3) 次への整備拡張の考えは。</li> </ol>	町長	本田 昭彦
2	1. 戰略的財政運営と外部財源の活用について	<p>本町は、不交付団体として安定した財政指数を維持してきたが、制度上は交付団体となった時期もあり、将来の歳入構造には不確実性がある。人口減少や高齢化が進む中で、今後は「必要なときに財源を探す運営」から「実現したい将来像を定め、その達成に必要な外部資金を主体的に獲得する戦略的な財政運営」への転換が必要である。国や県の交付金や補助金は多様化かつ複雑化しているが、同時に自治体からの提案を求める制度が拡大しており、本町が“提案型自治体”へと進化する契機でもある。また、企業版ふるさと納税など民間資金を積極的に活用することで、未来志向の事業を安定的に継続する財源体系を構築できると考える。以下、町長の所見を伺う。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) どのような将来像を描き、財政運営方針を取るのか。</li> <li>2) 財源獲得に向けて、庁内体制や人材育成をどのように整備していくか。</li> <li>3) 企業版ふるさと納税の活用分野を拡大し、重点施策の安定的な財源として位置づける考えはあるのか。</li> </ol>	町長	平渡 亮

質問順	件名	要旨	答弁者	議員名
2	2. 保育園の給食費負担軽減と保育士確保について	<p>保育園では、物価高騰の影響により給食費（主食費・副食費）の実費負担が増し、保護者の家計に負担が生じている。幼児教育・保育の無償化後も給食費は保護者負担が原則であり、他自治体では公費による補助を段階的に導入する例も増えている。中でも費用規模が比較的抑えやすい主食費については、最初の負担軽減策として取り組みやすいと考える。一方、保育士の確保と定着は深刻な課題であり、都道府県の保育士修学資金貸付（一定期間勤務で返還免除）は実効性が確認されている。これに町独自の上乗せ制度を組み合わせることで、若い人材の確保や地元就職の誘因を高めることができると考える。以下、町長の所見を伺う。</p> <p>1) 給食費のうち、主食費から補助を開始する考えはあるか。      2) 保育士確保に向け、町独自の修学支援制度を創設する考えはあるか。</p>	町長	平渡亮
	3. 命の教育の充実と地域連携について	<p>全国的に中学生の自己肯定感の低下が指摘され、特に中学3年生は将来への不安を抱きやすい時期である。知識だけではなく、体験的な学びを通じて自分と他者を肯定的に捉える力を育むことは、教育現場でも重要視されている。その取り組みとして注目されるのが「赤ちゃんふれあい交流事業」である。妊婦や赤ちゃんを抱いている保護者との対話や産婦人科医による講話を通じて、生徒が命の誕生、子育ての大変さと喜びを実感し、命の尊さや家庭への理解を深めることができる。実施自治体では、自己肯定感の向上や家庭理解の改善などの効果が報告されている。こうした学びは、思春期にある生徒の人生観や家族観の形成に寄与し、地域とのつながりを育む機会にもなる。本町でも児童支援センター・保育園、医療機関と連携することで導入が可能と考えるが、教育長の所見を伺う。</p>		教育長
3	1. 町が各地区をつなぐ役割を	<p>各地区において、各種団体による様々な催しが行われており、各地区のコミュニティが図られていると感じている。しかし、計画立案から開催に至るまでは多くの苦労が伴なっており、「行事を行うのに他地区の行事内容や取り組み方法などを参考にする機会として、他地区との情報交換の場を設けてほしい。」との相談を先日いただいた。</p> <p>他地区との情報交換は、新しい情報が入るメリットと地区の課題解決や地区の活性化を図るうえで重要な役割を果たすと考える。</p> <p>町が各地区をつなぐ役割を担い情報交換の場を設けることについて町長の所見を伺う。</p>	町長	堀籠日出子

質問順	件 名	要 旨	答弁者	議 員 名
4	1. 森づくり条例を 2. 町防犯カメラの保全 は	<p>令和7年の各地における熊出没激増と被害が社会問題になっている。本町においても、幸いにして町民の人身被害は無いものの、吉岡まほろば二丁目、吉田、宮床、もみじヶ丘などでの目撃情報が防災無線により町民に周知され、農作物被害も出ている。</p> <p>熊を含む有害鳥獣の人里出没推定原因は、個体数の増大によるほか、シカ生息数増大による深刻な森林食害や木の実等大凶作で、生息域での餌不足となり、餌を求めて人里に出没していることが考えられるとしている。</p> <p>森づくり条例などの条例が、16 都道府県や 32 市町村で制定されているが、県、市町村、森林所有者、森林組合等の林業事業者の林業並びに木材産業を主眼としており、森に棲む熊を含む鳥獣との共生を目指した条例にはなっていないようだ。</p> <p>このような中、林野庁の「令和7年度森林における鳥獣害対策について」では、緊急対策事業、整備事業、対策交付金、公共事業の予算が立てられている。</p> <p>そこで、人と有害鳥獣の住み分けを図るゾーン区分のため、適切な調査や捕獲に加え、豊かな森づくりを行える条例を制定してはどうか伺う。</p>	町 長	渡辺 良雄
		<p>世界の数ある国は、ある国製の防犯カメラが危険とし、販売や輸入禁止、使用的制限を設けている。わが国でも、政府内や政府関係機関等内では同様の措置を講じているようだ。しかしながら、政府以外の日本国内においては、野放し状態で輸入販売されており、中には、日本製として中身がある国のOEM製品が販売されている状況だ。</p> <p>本町が購入した防犯カメラの製造元を確認しているか、ある国の製品がある場合はどのような対応をするか。また、今後の購入に際して考慮していくのかを伺う。</p>	町 長	

質問順	件　名	要　旨	答弁者	議員名
5	1. 人材育成と魅力ある職場づくり	<p>本町の行政サービスは、最前線の現場で働く職員の力によって支えられています。しかし行政が取り扱う課題が質・量ともに増大している現状において、職員の業務量増大、人手不足、専門性の不足が顕在化している。役場が持続的に行政サービスの質を維持向上していくためには、人材育成の強化と組織体制の改善、職場環境を整えることが不可欠であると考える。そこで、以下を町長に問う。</p> <p>1) 職員の視点からの評価として、どの程度、仕事に充実感を持っているのか、どのような課題を感じているのか、能力を十分に発揮できる環境になっているのか、連携体制が適切に機能しているのか等、職場環境の実態について、町はどのように把握しているのか。</p> <p>2) 魅力ある職場づくりに置いては、人材育成が根幹である。採用から定着までを一体的に捉え、どのような改善策や施策が必要だと認識しているのか伺う。</p>	町　長	佐野　瑠津
	2. 命の尊さに根ざした性教育と心の教育を	<p>近年、日本全国で若年層の性暴力や性トラブル、また幼い子どもを巻き込む性犯罪などが依然として深刻な問題となっており、生命の尊重・自他の尊厳を育む教育、「性」に関わる正しい知識が社会的に強く求められている。文部科学省も「性犯罪・性暴力に関する対策」の一環として、全国の学校で「生命（いのち）の安全教育」を推進しているが、多方面から「命の尊さ」に根ざした性教育への取り組みと、道徳心を養う心の教育への強化が求められていると考える。</p> <p>1) 本町の学校教育における「生命の安全教育」への取り組み状況、または道徳的な観点を養う心の教育に関して独自の取り組み状況を伺う。</p> <p>2) 学校生活における生徒間でのトラブルや教育現場の先生方が感じている課題や困難は何か。また、それらを改善するために、教育委員会としてどのような支援策を講じているか。</p> <p>3) 令和6年12月議会において、教育長のご答弁に「自分は大切。相手も大切である。自己肯定感を高める命の教育こそ一番大事である。」とありましたがその後、検討された取り組みについて進捗状況を伺う。</p>	教育長	

質問順	件 名	要 旨	答弁者	議 員 名
6	1. 令和6年度入札執行の評価と課題は	<p>令和6年度の町の入札は、指名競争入札が178件、一般競争入札が36件、総合評価落札方式入札が3件の計217件であった。一般競争入札のうち、「舗装工事」は5件で予定価格平均は約3,483万円、「建築一式」は5件で約4,579万円、「土木一式」は5件で約7,406万円。請負者所在地を見ると町内業者は4件にとどまり、低入札価格件数は13件に上っている。</p> <p>公平で透明な入札は重要であるが、過度な価格競争や町内業者への発注の少なさは地域経済の活性化や施工品質にも影響があると懸念しており以下を伺う。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 低入札価格調査委員会は適切に機能しているか。</li> <li>2) 総合評価落札方式入札件数の評価と今後は。</li> <li>3) 指名競争入札の基準価格を変更しては。</li> </ol>	町 長	森 秀樹
	2. 子育て支援住宅の居住年齢引き上げを	<p>子育て支援住宅の居住期間は、「当該入居者のすべての子が15歳に達する日以後の最初の3月31日までとする。」となっている。</p> <p>本町のホームページによると住宅整備の目的は地域活力やコミュニティの維持を図ること、子どもを持つ世代の定住を促進するためとなっている。これらを達成するためには空き家の調査、空き家対策、移住定住促進など総合的な施策展開が必要であるのではないかと考える。現在の居住期間を定めている条例では町民の子育てを支援することは可能だが、地域活力やコミュニティの維持を図ることは難しいと考え以下を伺う。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 子育て支援住宅の住民へ入居後にヒアリングを行っているか。</li> <li>2) 18歳まで年齢を引き上げた場合の効果と課題は。</li> <li>3) 目的達成へは、どのような施策が考えられるか。</li> </ol>	町 長	
	3. 嘘か嘘と見抜ける力の醸成を	<p>近年、生成AIやSNSの普及により、私たちが日々接する情報の種類や量は飛躍的に増加している。中でも、生成AIによって生成された画像や文章は、一見すると本物と区別がつかないほど精巧になっており、誤情報に惑わされる危険性が高まっている。</p> <p>このような状況下において、子どもたちが今後の社会で生きていくためには、情報を聞き取るだけではなく、「本当かどうかを自ら判断する力」が必要であると考える。</p> <p>しかし、現状では子どもたちに十分な情報リテラシー教育が行き届いていないのではないかと懸念する。</p> <p>そこで、本町の学校教育における情報リテラシー教育の現状と、今後の取り組みについて伺う。</p>	教育長	

質問順	件名	要旨	答弁者	議員名
7	1. 新産業廃棄物最終処分場について	<p>令和7年4月に新産業廃棄物最終処分場の工事が着工し、令和8年4月で丸一年となる。着工前に比べて事業公社からの説明が少なくなったと考える。</p> <p>この事業は約3年の工事期間を経て、埋め立て完了まで約20年、その後の管理にも約30年という長い時間を要する事から、大和町に住む住民への丁寧な経過説明や周辺地域への根差した対応が必要ではないか。以下に町の考えを伺う。</p> <p>1) 8月28日に第1回環境保全協議会が開催されると10月1日に発行された新処分場ニュース Vol. 7で知ったが、改めてその内容を伺う。</p> <p>2) 新処分場建設に伴い36の周辺環境整備事業を行って貰い地域住民からは感謝の言葉を聞く。新処分場は約50年にも亘る長期事業の為、期間中に新たな課題が出る事が考えられるが、町では県や事業公社と連携し整備事業を行う考えに変わりはないか伺う。</p> <p>3) 新処分場を利用する事業所が、周辺地域に新たな事業所の開設や、事業拡大が懸念される。それ以外の様々な業種の誘致と進出しやすいインフラを整える考えはないか。町の考えを伺う。</p>	町長	宮澤 光安
8	1. 熊出没に対する対応について	<p>全国的に熊による農作物や人的被害が多発しており、県内そして本町においても、熊の出没が相次いで報告されているところである。現状では餌となるドングリなどの餌資源の減少が原因ではないかとされているが、住民の生活に大きな影響を及ぼしているところである。</p> <p>そこで以下の点について伺う。</p> <p>1) 本町における熊の出没件数や被害状況は。</p> <p>2) 熊の出没情報の収集・共有・発信体制（警察・住民間等）は十分か。</p> <p>3) 住民が安心して暮らせる環境にするには、今後どのような施策を検討すべきと考えるか。</p>	町長	馬場 良勝
	2. 町職員間のハラスメント対応について	<p>本町の職員間におけるハラスメントの防止策や対応策、また現在の取り組み状況などについて以下の点を伺う。</p> <p>1) 職員間のハラスメントに対して、どのような方針または、規定を設けているか。</p> <p>2) ハラスメントが発生した場合、どのように対応しているか。また、どのようにサポートしているか。</p> <p>3) 職員間のハラスメントを防止するために、府外の相談窓口が必要と考えられるが、町としての考えは。</p>	町長	

質問順	件名	要旨	答弁者	議員名
8	3. 町の畜産業の現状について	<p>物価高騰による影響や後継者問題などで、本町の畜産農家は減少傾向にあると感じている。本町の基幹産業である農業にも影響を及ぼすものであると思うが、以下の点について伺う。</p> <p>1) 町内の生産者数、飼育頭数の推移をどのように捉えているか。</p> <p>2) 畜産農家が抱える課題として、環境や経済面での問題をどのように捉えているか。</p> <p>3) 畜産業を持続可能な産業にするために、町としてどのような支援を行っていくべきと考えるか。</p>	町長	馬場 良勝
9	1. 児童生徒の学力向上について	<p>第五次総合計画 第2章子育て・保健福祉・教育6. 確かな学力と豊かな心の育成では、「児童生徒の確かな学力と豊かな心、健やかな身体を育成するため、学校や家庭、地域社会と連携しながら、学校教育の充実に努める」と、基本目標が掲げられている。</p> <p>以下について伺う。</p> <p>1) 第五次総合計画は現在見直しが行われているが、基本目標の変更等の考えはあるか。</p> <p>2) 目標達成のため、(1) 確かな学力の育成 (2) 豊かな心と健やかな身体の育成 (3) 学習環境と教育支援体制の充実の3部門において数多くの施策が展開されている。これまでの事業の成果を町はどう評価しているか。</p>	町長	今野 信一
	2. 行政区の運営について	<p>町は、行政区における役員の高齢化・固定化や定年延長による担い手不足、住民の連帯感の希薄などの課題解決の一助として「行政区運営事業補助金制度」を設立した。地域住民の活動に対する助成を行い、地域コミュニティの活性化による持続可能な運営につなげるねらいがある。</p> <p>以下について伺う。</p> <p>1) 本事業への申請を行った行政区は何団体あったか、また事業内容はどのようなものがあったか。</p> <p>2) 行政区の持続可能な運営を考える時、本事業だけでは不十分と思われる。今後の計画は。</p>	町長	

質問順	件　名	要　旨	答弁者	議員名
10	1. トイレを和式から洋式へ	<p>近年、家庭でのトイレは一般的に洋式化されている。町の各施設は高齢者を始めとする利用者に優しいトイレになっているか、以下について問う。</p> <p>1) 町の公共施設において、施設分類別のトイレの数と和式と洋式の比率はどうか。</p> <p>2) 町民が多く集まる、まほろばホールやひだまりの丘、吉田コミュニティセンター等の集会施設は利用者が多いので早急に改修すべきではないか。</p> <p>3) 施設の長寿命化工事にはトイレ改修も含むと思うが、改修には多額の工事費が必要で財源を含む長期計画の作成はされているか、又は今後の計画は。</p>	町　長	佐々木久夫
	2. 全ての子どもが楽しく遊べる公園へ	<p>町には多くの公園があるが、子ども達の遊んでいる姿を見ていると嬉しく感じる。</p> <p>そこで、子ども達が、障壁や国籍、年齢や性別に捕らわれず、様々な人々と触れ合い遊ぶことは、将来成長したときに思いやりの心を持つやさしい大人になるのではないかと考える。</p> <p>本町において、インクルーシブ遊具を備えた、インクルーシブ公園を整備し、全ての子ども達が共に遊べる環境が必要と思うが、町としての考えを問う。</p>	町　長	
11	1. 登下校時の安全対策強化を	<p>近年、町内において下校途中の小中学生に対して声かけをしたり、つきまといやワイセツな露出事件などが発生し、つい最近では令和7年10月に女子中学生に対して、あきらかに「不審」な声かけをする事案が発生している。</p> <p>また、熊の目撃情報が連日のように飛び交っていて人間の生活圏にまで出没しているため、登下校時の危険度は以前と比べ、格段に高くなっていると思われるが、以下について町の考え方を伺う。</p> <p>1) 現在、小中学生の登下校時の安全対策について、どのような取り組みを行っているか。</p> <p>また、今後追加すべき対策や改善策は考えているか。</p> <p>2) 暗い道を徒歩で帰る生徒もいるようであるが、どのような状況を把握し、安全な対策をとっているか。</p> <p>3) 保護者や地域住民からの意見や要望を、今後どのように取り入れていくのか。</p>	教育長	櫻井　勝

質問順	件 名	要 旨	答弁者	議 員 名
12	1. 配慮を必要としている児童生徒について	<p>「ハイリー・センシティブ・チャイルド」（略して HSC）とは心理学者エレイン・N・アーロン博士が提唱した概念で、「人一倍敏感な気質を持つ子ども」のことを指すが、5人に1人が該当するとされている。</p> <p>また、聴覚情報処理障害（APD）及び聞き取り困難症（LID）とは、音は聞こえるものの言葉を聞き取りにくい症状をいう。主な特徴として、聴力検査では異常がない、何度も聞き返してしまう、聞き間違いが多い、雑音があると特に聞こえにくい、口頭の指示が理解しづらい、すぐ忘れる、早口や小さな声が聞き取れない、長時間の会話についていけない、視覚情報に頼りがちになるというものである。</p> <p>そこで、以下の点について伺う。</p> <p>1) HSCは本町においても、相当数いると推定されるがそれが不登校の原因になっている可能性がある。教職員への研修、保護者及び町民への啓発など HSCへの理解周知が必要ではないか。</p> <p>2) APD及びLIDについて正しく理解し関わるために、教職員向けの研修会を開催するとともに、保護者や町民への理解周知が必要と考えるが所見を伺う。</p>	教育長	犬飼 克子
	2. 児童生徒の安全対策について	<p>長期休業中（夏休みや冬休みなど）に災害が起きた場合に、子どもが留守を守るケースが多いと考えるが、不安の声が聞こえる。日頃の家庭との連携で避難をどのように指導しているか。</p> <p>また、昨今の熊の出没での児童生徒の登下校の安全対策に心配の声が多く聞こえる。町や教育委員会としてどのように児童生徒の安全対策を考えているか、以下の2点について伺う。</p> <p>1) 夏休みや冬休みなどの長期休業中の災害発生時における児童生徒の避難体制について、登校していない時期に地震や風水害が発生した場合、児童生徒の安全確保・避難誘導はどのように想定しているか。</p> <p>2) 災害発生時（熊の出没も含めて）における「子ども 110 番の家」の活用と連携について、子ども 110 番の家の現状（登録件数・管理体制・標識の更新状況）をどのように把握しているか。</p>	教育長	

質問順	件 名	要 旨	答弁者	議 員 名
12	3. 子宮頸がんの撲滅に向けて	<p>子宮頸がんは、がんの中で唯一予防可能でありながら、依然として若年女性の命を脅かす深刻な疾患である。日本ではHPVワクチンの接種率が一時的に、著しく低下した影響により、今後数十年にわたり、予防可能だったがんによる罹患と死亡が増加することが懸念されているが、これまでの本町の取り組み内容と、今後の更なる施策について伺う。</p> <p>1) 令和6年度および令和7年度の対象者への啓発の状況と、令和8年度以降、定期接種全学年の未接種者に対して、毎年度接種勧奨通知を行ってはどうか。</p> <p>2) HPVワクチンを男性にも接種助成してはどうか。</p>	町 長	犬飼 克子